令和６年度　　令和６年２月17日（土）実施

興南高等学校

入学試験問題

中　期

国　語（50分　100点）

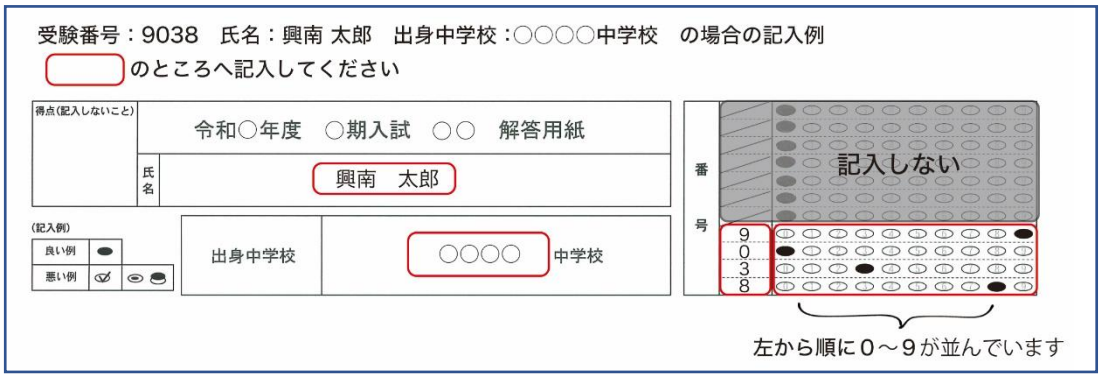
＜注意事項＞

① 試験開始の合図があるまで，この問題用紙は開かないようにしてください。
解答用紙は別になっています。

② 問題は 【一】 ～ 【三】 まで３題あります。

③ 試験時間は50分です。

④ 解答用紙には，以下の例にならって受験番号，中学校名，氏名を必ず記入してください。



⑤ 解答は解答用紙の所定のところに記入してください。

⑥ 解答は楷書（かいしょ）で丁寧（ていねい）に記入してください。

⑦ 試験終了後，問題用紙は持ち帰ってください。

【　一　】次の文章を読み、後の問いに答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

心理学者ギャラップは、チンパンジーのいる部屋に鏡を置いてみた。［　い　］、チンパンジーは、鏡の中に映る自分の姿を他者と見なしているかのような反応を示した。鏡像に向かって跳びはねたり、声を出したり、威嚇（いかく）したりした。だが、①そのような反応は2～3日で急減し、それに代わって直接見えない自分の身体の部分の毛づくろいをしたり、歯の間に挟まった食べかすをほじくったり、泡を吹いて[a]フクらませたり、鏡に向かっていろんな顔つきをするなどの反応が急速に増えていった。鏡に映る姿が自分の映しだということを理解しているかのような反応だった。

チンパンジーが自分の鏡像をほんとうに理解しているのかどうかを確認するために、ギャラップは、10日間鏡に慣れさせた後の11日目に、チンパンジーを[b]マスイで眠らせておいて眉毛や耳の上に無臭の赤い[c]センリョウを塗り、目が覚めてから、鏡がないときと鏡を入れてからの反応を比較した。

その結果、鏡を入れることによって、赤い印のついた自分の身体の部分を触る反応が25倍に増えることがわかった。このことは、鏡像が自分の姿の映しだということを理解している証拠と言える。チンパンジーともなると、自分の鏡像を理解し、利用することができるのである。

ところが、②生後まもなく隔離して育てられたチンパンジーは、仲間と一緒に育てられたチンパンジーと違って、自分の鏡像を理解できないことがわかった。鏡を入れても、赤いしるしのついた自分の身体の部分を触る反応は増えないのだ。ここからわかるのは、自分の鏡像を理解するためには、他者との視線のやりとりを十分に経験しておく必要があるということである。

自己像を認知するということは、他者がこちらを見るように自分自身を見ることである。［　ろ　］、他者のまなざしを取り入れるこ

とだ。「他の人たちから見ると、自分はこんなふうに見えるんだ」ということがわかるということである。

それができるようになるには、他者に向ける自分のまなざしと自分に向けられる他者のまなざしのやりとりを十分に理解しておくことが[d]ゼンテイとなる。それがあって初めて、「自分が他者を見るように、他者も自分を見ている」ということが実感をもって理解できるようになるのだ。自分の姿は、自分の目に映る他者の姿のように、他者の目には映っている。そのことを理解するのである。

チンパンジーの鏡像実験は、私たちの自己理解に関して、有益なヒントを与えてくれる。私たちは、いろんな人とのやりとりを通して、「他の人たちから見ると、自分はこんなふうに見えるんだ」ということがわかるようになる。これは、身体像だけにあてはまるものではない。自分がどんな性格かといった内面の自己像も、「人からどのように見られているか」を知ることによってつかんでいくものなのである。

このことを社会学者クーリーは、「他人の目に映ったものが自己である」と表現している。「人からどのように見られているか」が自己だというのである。他人を鏡にして映し出された姿が自己であるという意味で、クーリーは、「鏡映自己（きょうえい）」というとらえ方をしている。私たちは、③他人を鏡にして自己を知るのである。

他人がこちらのことをどう思うかが自己だなんて納得いかないという人もいるだろう。では、あなた自身の性格について考えてみよう。あなたが抱いている性格的[e]トクチョウについて、それが自分のトクチョウだということは、どうしてわかるようになったのだろうか。小さい頃から、親から「あなたは［　は　］な子だね」と言われる。学校で先生から「あなたは迷いながらじっくり考えるタイプね」と言われる。友達から「早く決めろよ、お前は決断力がないから一緒にいてイライラする」と言われる。そうした経験を通して、「自分は［　は　］であれこれ迷う決断力のない性格だ」という自己理解ができあがっていく。かかわりのある周囲の人たちから突きつけられたコメントから自己像が組み立てられていく。そんな感じなのではないだろうか。

【　榎本博明『「上から目線」の構造〈完全版〉』（日本経済新聞出版社）より一部抜粋　※問題作成の都合上、一部改変　】

問一　二重傍線部a～eのカタカナを、漢字に直せ。

a　泡を吹いてフクらませたり　　b　マスイで眠らせて　　c　赤いセンリョウを塗り

d　理解しておくことがゼンテイとなる　　e　性格的トクチョウについて

問二　空欄［い］・［ろ］に当てはまる言葉として最も適当なものを次のア～オの中から選び、それぞれ記号で答えよ。

ア　すると　　イ　しかし　　ウ　つまり　　エ　たとえば　　オ　なぜなら

問三　空欄［は］に当てはまる四字熟語として最も適当なものを次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　用意周到　　イ　温厚篤実　　ウ　厚顔無恥　　エ　優柔不断　　オ　天真爛漫

問四　傍線部①「そのような反応は2～3日で急減し」とあるが、それはなぜだと考えられているか。次の文の空欄［　］にあてはまる言葉を本文中から七字で抜き出せ。

チンパンジーが鏡に映った像を［　　］だと理解したから。

問五　傍線部②「生後まもなく隔離して育てられたチンパンジーは、仲間と一緒に育てられたチンパンジーと違って、自分の鏡像を理解できない」とあるが、これは隔離して育てられたチンパンジーにはある経験が不足しているためと考えられる。その経験とは何か、本文中から十一字で抜き出せ。

問六　傍線部③「他人を鏡にして自己を知る」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えよ。

ア　私たちは、他者が自分をどのように見ているかを知ることによって、自己像をつかむということ。

イ　私たちは、他者の視線から解放されることによって、己の内面と向き合うことができるということ。

ウ　私たちは、他者がこちらに差し出す意見に従うことによって、自己を形成していくということ。

エ　私たちは、他者の行いの善し悪しを見ることによって、自分自身の行いを反省できるということ。

問七　この文章を読んだあと、「本文からわかったこと」について４人の生徒が話し合った。このア～エの発言のうち、本文の内容と合致しない発言を一つ選び、記号で答えよ。

ア…チンパンジーの鏡の実験を踏まえて、私たち人間がどうやって自己像を理解しているのか、話題が展開していたね。

イ…隔離して育てられたチンパンジーの例からは、自分に向けられる他者からのまなざしと自己理解との関係が見えたよ。

ウ…人からどう見られるかによって自己が決定されるから、筆者が不安視しているように、人付き合いには慎重になろう。

エ…「自分がわからない」という状態にならないためには、様々な人と関わって他人を鏡にする機会を増やせばいいんだよ。

問八　次の【文章１】を読み、本文との違いをまとめた。その文の空欄 A ～ D には、「自己」か「他者」のいずれかが当てはまる。適切な語句をそれぞれ答えよ。

本文はチンパンジーの実験を通じ、人間が A を理解するためには B の存在が欠かせないという内容である。一方、【文章１】は C を意識するあまり空気を読んで D を調整している若者について述べられている。

【文章１】

ひとりでやって来たときには、結構暗い表情で深刻な相談を持ちかけてくるのに、友達と一緒の場面では、悩みなんか何にもないといった屈託（くったく）のない笑顔で冗談を言って明るくはしゃぐ。そのような若者が少なくない。友達に内面的な話はしないのかと尋ねると、

「そんな話できませんよ。そんな話題出したら、みんな困っちゃうじゃないですか」

という。うっかりホンネを出すと「引かれちゃう」からホンネは出せない。そんな風に多くの若者が語るのを聞いてきた。（中略）お互いのプライバシーには踏み込まないのがやさしさであり友情だといっても、友達にホンネを出すと引かれちゃうからといっ

て、カウンセラーに相談しなければならない時代になっているとしたら、何だかちょっとおかしくないだろうか。

自己中心的な振る舞いが多いと見なされている現代の若者だが、相手に非常に気をつかっている面もある。それが「空気を読む」ということであり、その場にふさわしい話題しか持ち出さないという意味での気づかいが不可欠なものとなっているようである。

だが、自分のどういう面は出しても良いが、どういう面は出してはいけないというような判断を相手ごと、場面ごとにするのは、何とも面倒な作業だ。そこに登場した便利な装置が「キャラ」だと言って良いのではないか。

「あいつは〇〇キャラだから」

「あの子は△△キャラなのよね」

といった言葉をよく耳にするようになった。たとえば「天然キャラ」ということにすれば、空気を読めなくても許される。「鉄オタキャラ」ということにすれば、いつも自分の好きな鉄道ネタばかり話してもウザがられない。自分は「〇〇キャラ」であると公に示してしまえば、いつもその面だけを出していればよいのだ。（中略）

キャラという言葉をひと頃ほど聞かなくなったが、今も実質は同じである。[*1] 対人不安のところで述べたように、今の若者は相手の反応をとても気にする。傷つけたらまずい、場違いなことを言ったら引かれる、変なヤツと思われたくない、嫌われるのが怖いなどといった思いが強く、率直にものを言うことができない。

空気を読む傾向は、今の若者の間では非常に強まっているように思われる。

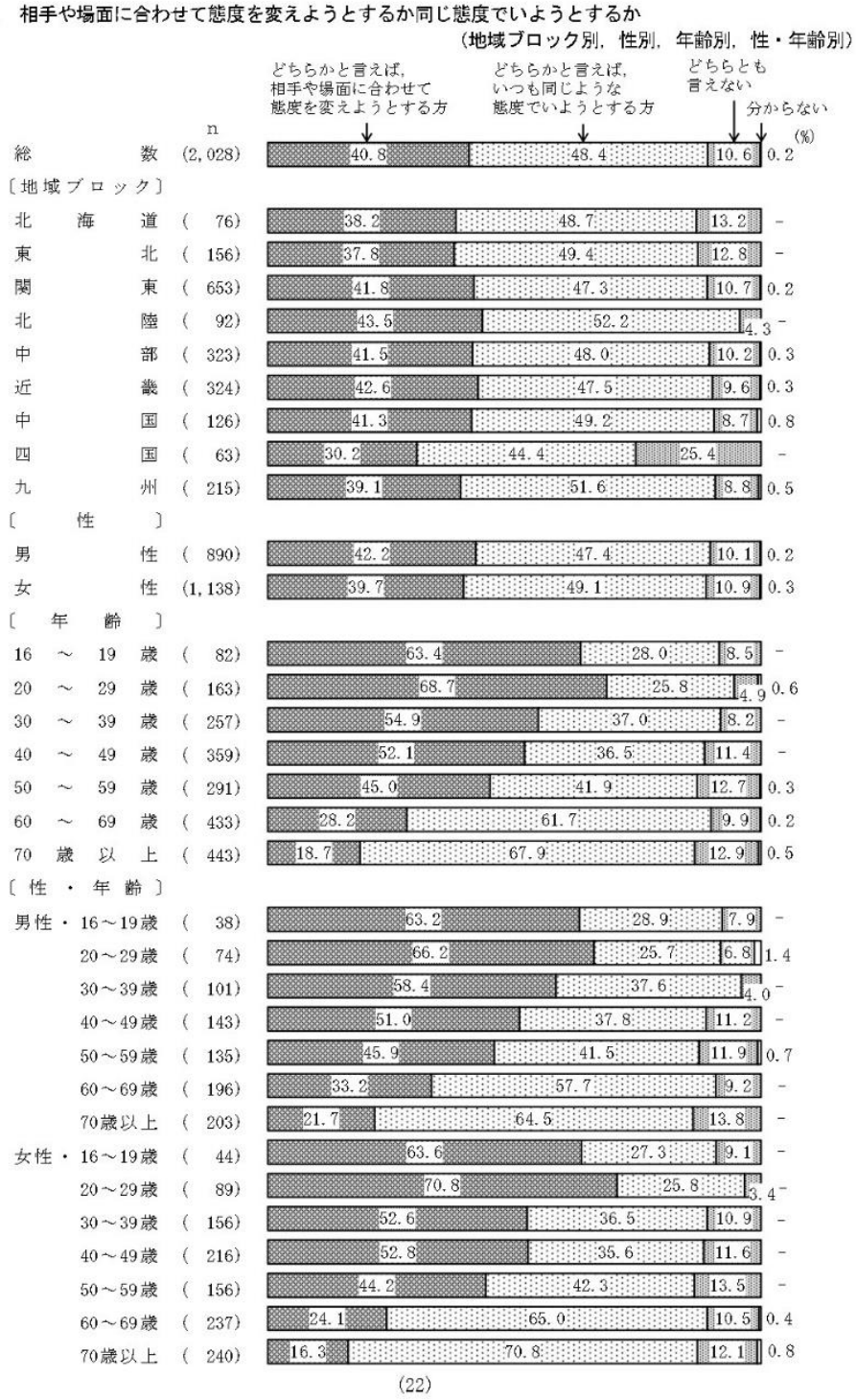
【　榎本博明『「上から目線」の構造〈完全版〉』（日本経済新聞出版社）より抜粋　】

【語注】

＊1　対人不安のところ…筆者はこの前節で、他者との距離のとり方に悩む人々について述べている。

問九　本文と【文章１】、【図１】から分かることについて、４人の生徒が発言した。その内容が本文や【文章１】【図１】と合致するものを一つ選び、記号で答えよ。なお、【図１】は、平成二十六年三月に文化庁が実施した「国語に関する世論調査」における「人と接する際、相手や場面に合わせて態度を変えようとする方か」という設問の結果である。

【図１】



ア…【文章１】で述べられているように、私も友達に悩みを言わないし、友達から悩みを聞いたこともない。これって本文の「他人を鏡にして映し出された姿が自己である」ことを証明しているよ。

イ…本文にある通り、「他者のまなざしを取り入れること」は自己理解とつながっているから、友達に「明るい性格だ」って認識してもらうことで、わざわざ打ち明けなくても不安は自然と解消されていくのかもしれないね。

ウ…【図１】を見て、「相手や場面によって態度を変え」るかどうか、性差がないことが意外だった。「周囲の人たちから突きつけられたコメント」に従うのは、本文で筆者が指摘しているように女性特有の傾向だと思っていたからさ。

エ…それは低い年代に当てはまる傾向だよ。【図１】によると、二十代の七割近くが「相手や場面に合わせて態度を変えようとする方」だと回答しているし、これは他の項目には見られない結果だ。

【二】次の文章は、垣谷美雨（かきやみう）の小説『うちの父が運転をやめません』の一部である。これを読み、後の問いに答えよ。答えは楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合は採点されないため注意せよ。

猪狩雅志（いのかりまさし）（本文では「自分」）は妻である歩美（あゆみ）、息子である息吹（いぶき）と三人で東京に暮らしていた。雅志の父母は田舎に暮らしていたが、高齢で今後の生活が不安に思われたため、歩美の提案で東京に移住させようと、試しに近所にあるウィークリーマンションに呼び寄せた。しかし東京の暮らしになじめない父母の様子を見た雅志は、長年勤めた東京のサラリーマンの仕事をやめ、父母とともに田舎の実家に帰り、「ヒマワリ号」という軽貨物車を用いた移動スーパーの仕事に転職しようと思い立つ。この場面は、雅志が初めて「ヒマワリ号」にのって移動販売に出発するという場面である。

車に乗り込んで、次の停車場所に向かった。前方に人が集まっているのが見えた。九十歳以上と思える枯れ木のような男性が一人と、八十歳前後の女性が三人、そして六十歳前後と見える女性が五人いる。

車を降りて店開きの用意をしていると、お客さんが互いに挨拶している声が聞こえてきた。

「お久しぶりじゃ。最近ちっとも顔見んかったけど」と枯れ木の爺さんが言った。枯れた[a]フンイキ特有の、小ざっぱりとした清潔感のある人物だった。

「そりゃこっちの台詞じゃわ。どうしとんさるかと思っとった」と八十歳くらいの女性が応えている。

「孤独死しとるんやないかと思っとったんじゃろ。残念でした。わしはまだ死なん」

やはりこの辺りでも、すぐ近所に住んでいるのに顔を合わせることが少ないらしい。

「私、最近になって押し花教室に通っとるんよ。あんたもやらん？」

六十代くらいの女性が、同年代の女性に話しかけている。
「押し花？そんなんして儲(もう)かるんか？」
「まさか、趣味やがな、趣味」
「暇やから、通ってみてもええけど」
「ほんなら次にヒマワリ号が来たときに申込用紙を持ってきたげるわ」
①ヒマワリ号の停車場所が待ち合わせに使われるのは嬉しいことだった。自分が子どもだった頃は人も店も多く、こういった場面がたくさんあった。今はbカンサンとして、いずれ故郷がなくなるのかと寂しい気持ちになっていたところだった。
早朝にヒマワリ号に食料品を積み込んだ時点で疲れ果てたと思っていたが、停車場所に車を停めるたびに、人が集まっているのを見るとほっとした。
この調子でいけば売り上げも期待でき、ヒマワリ号での生活が成り立つのではないか。そう考えると、気分が［　I　］してきた。
「あんたはんが来てくれんさったから大助かりじゃわ」と話しかけてきたのは、枯れ木の爺さんだった。
「わしは息子や娘にうるそう言われて免許を返納したんじゃ。途端に不便になったけど、ヒマワリ号はわしの好きなフライビーンズも売っとるし言うことないなあ」
「今後も何卒御贔屓(なにとぞごひいき)に」と言いながら、素早く心の中でメモをした。
――フライビーンズを欠かさないこと。
そんな調子で、なんとか二十六ヶ所を回った。残すはあと四ヶ所だ。
もう少しだ。頑張ろう。明日は休みだ。
対向車とすれ違うたびに、自然と運転席に目が行くが、ほとんどが年寄りばかりだった。六十代なら若い方だと思えるほど、少子

高齢化の波が田舎では［Ⅱ］だった。

最後の停車場所は、実家の門を入ったところだ。

ヒマワリ号に乗ったまま門を潜ると、縁側にずらりと人々が座って待っていた。

お茶や漬物や饅頭（まんじゅう）が運転席から見えた。まるで茶話会（さわかい）のように賑やかだ。老犬トーマスも母のそばで尻尾を激しく振っている。

車を降りると、「やっと来たか、遅かったのう」と父が言った。

「予定より五分早いよ」と言いながら、腕時計で確かめた。

「それはわかっとる。近所の人らが一時間も前から縁側に集まってきとって、まだかまだかとみんなで楽しみに待っとったんじゃ」

そう言って、父は苦笑した。

②停車場所を門の外にすべきだったかと、ふと後悔がよぎった。

今日は楽しそうだが、そのうち鬱陶（うっとう）しいと感じる日が来るのではないか。賑やかにはなったけれど、煩（わずら）わしい人間関係がついてくるデメリットもある。一長一短だ。

だが、週にたった二回のことだし、とにもかくにも、両親の日常に少しでも変化とcシゲキをもたらす方がいい。ウィークリーマンションにいた頃の父のうつろな目つきに比べたら、なんと生き生きしていることか。

ヒマワリ号を始めたことで、賑やかな光景を久しぶりに見た。こんなふうに地元の人たちが集まって楽しそうに話しているのを見たのは子どものとき以来だ。途絶えていた地元民同士の関わりを復活させたという［Ⅲ］が芽生えた。歩美や息吹にも堂々と誇れる仕事だと思えてくる。

近所の人々は、こちらの転職祝いも兼ねているのかと思うほど、たくさん買ってくれた。その分、次回の買い物は少ないかもしれないが。販売をすべて終えてスーパーに戻ると、各部門の担当者が商品の引き取りに倉庫の外まで出てきてくれた。

（中略）

雅志はヒマワリ号による移動販売をするために、妻の歩美と息子の息吹を東京に置いて田舎の父母の実家に来ていたが、ある日、夏休みを利用して息吹が遊びにきた。

風呂から上がって縁側で涼んでいると、息吹が来て隣に腰を下ろした。

見上げると、夜空一面に無数の星が輝いていた。

③「父さん、相談があるんだけど」

真剣な顔つきだ。

「俺さ、農業高校に転校したいんだ」

えっ？

驚いて声も出なかった。

「もしかして息吹、お前……」

子どもなりに家計のことを心配したのかもしれない。収入が減ったことも、住宅ローンが残っていることも知っているに違いない。だから私立から公立に転校しようとしている。

「どうして普通科じゃなくて農業高校なんだ？」

「じいちゃんたちの手伝いをしているうちに、やってみたくなった」

「農業じゃ食っていけないだろ」

「父さんって古いねえ。今は農業で儲けてる人がたくさんいるんだよ。知らないの？中国や東南アジアに果物や野菜を輸出している人たちのこと」

「それならテレビで見たことあるけど、みんながみんな成功するわけじゃないよ。マスコミが取り上げるのは成功者ばかりだろ。で、大学はどうするんだ？」

「行かない」

「なんでだよ。大学でも農業を勉強したらいいだろ」

「大学で学ぶことなんて何かあるの？勉強って自力でやるもんだと思うけど」

言い返せなかった。

「母さんは英語学科だけど、そんなのわざわざ大学で教わらなくても自力で学べるって母さん自身が言ってたことがあるよ。農業だって、じいちゃんに教えてもらったり、本を読んで勉強したりするだけで十分じゃないのかな」

息吹の言う通りかもしれないと思ったが、正反対のことが口から出ていた。

「英語と農業とは全然違うだろ」

――大学行かないなんて、そんなこと言ったら母さんが悲しむよ。

④その言葉をぐっと飲みこんだ。息吹の真剣な目に見つめられるうち、歩美に責任転嫁して口先でごまかすのはもうやめようと思った。父親として、人生の先輩として、自分はどう思うのか。

「そのこと、もう母さんには話したのか？」

「うん、話した」

「母さんは何て言ってた？」

i

「えっ、ほんとか？歩美は本当にそう言ったのか？」

びっくりして、思わず大きな声が出てしまった。

息吹はにやりと笑った。「嘘に決まってるじゃん」

「何なんだよ。本当は母さん何て言ったんだよ」

ii

「だろうな」

iii

「息吹の言う通りだ。だけどそれは、親父やお袋のためだよ。きっかけは、父さんの友だちの父親の事故だ。そのうえ今年いっぱいでバス便もなくなるからな」

「本当にそれだけの理由なの？」

そう言って、じっと見つめてくる。

「もちろんそれだけじゃない。新しいことに挑戦してみたくなったんだ」

「ほらね」と、息吹は得意げだ。

（中略）

iv

息吹に一流大学や一流企業を望むのは、本当に本人のためなのだろうか。そのレールを外れたら、必ずとんでもない人生が待っているのか。不安定で貧乏な生活しか残されていないとでも？

歩美の場合は、親も親戚もエリート揃いだから、そうではない人々の生活を知らない。それもあって、想像の[Ⅳ]が極端な方向に振れるのだ。自分のこれまでを振り返ってみても、決められた仕事を正確にこなすだけで、自分で考えて工夫のできる余地のない仕事に喜びを見出すのは困難だった。

「先生や母さんの言う将来って、いったいいつのことなんだろう……」

独り言なのか、息吹の語尾が消えかかった。

「じいちゃんばあちゃんが元気なうちにいろんなことを教えてもらいたいんだ」

【 垣谷美雨『うちの父が運転をやめません』(角川文庫) より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変 】

問一 二重傍線部a～cのカタカナを、漢字に直せ。

a 枯れたフンイキ特有の、小ざっぱりとした

b 今はカンサンとして、いずれ故郷がなくなるのか

c 日常に少しでも変化とシゲキをもたらす方がいい

問二 本文中の空欄[Ⅰ]～[Ⅳ]にあてはまる熟語を、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

[Ⅰ] ア 高揚 イ 変化 ウ 満足 エ 一新 オ 転換

[Ⅱ] ア 曖昧(あいまい) イ 到来 ウ 当然 エ 既知(きち) オ 顕著(けんちょ)

[Ⅲ] ア 自覚 イ 自嘲(じちょう) ウ 希望 エ 信念 オ 自負

[Ⅳ] ア 修羅場 イ 老婆心(ろうばしん) ウ 羅針盤 エ 試金石 オ 寂寥感(せきりょう)

問三　傍線部①「ヒマワリ号の停車場所が待ち合わせに使われるのは嬉しいことだった」とあるが、なぜそう思うのか。その理由を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　ヒマワリ号を始めたものの実際に人が買いに来てくれるか不安だったが、地域の人たちが皆買い物に集まってくれたため、安堵しているから。

イ　長年続けたサラリーマンを辞めたために不安があったが、地域の人たちが買い物に集まってくれていたため、生計を立てられそうだと感じたから。

ウ　故郷は過疎化が進み人の姿を見かけなくなっていたが、大勢が買い物に集まってくれていたため、自分が地域の活性化に役立っていると感じたから。

エ　高齢の方がどれだけいるのか不安だったが、多数の高齢者が集まってくれていたので、高齢者向けの自分のビジネスがうまくいくことを確信したから。

オ　知人がどれだけ地域に残っているのか不安だったが、顔見知りの人が多数集まってくれていたので、自分の子どものころを思い出して懐かしくなったから。

問四　傍線部②「停車場所を門の外にすべきだったかと、ふと後悔がよぎった」とあるが、なぜこのように思ったのか。その理由を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　地域の人が父の家に集まってくることで活気を感じられるのは良いと思うが、その一方で毎回家に人が集まることで、父に負担を与えるのではないかと心配されるから。

イ　普段地元でも友人のいない父の家に人が集まるため嬉しく感じるが、地域の人に対して気遣いをしなければならない面倒を父にかけるのではないかと心配されるから。

ウ　東京では人づきあいが少なかった父が、田舎では人付き合いをしていける機会があると予感して安堵しているが、気難しい父が上手に友人を作れるのか心配されるから。

エ　普段はだれも父の家にやってこなかったため父が平穏に暮らしていたのだが、今後家に人が集まることで、父が事件に巻き込まれてしまうのではないかと心配されるから。

オ　父の知人が多数集まることで、地域の活性化が促されることは確信したが、人見知りの父にそうした重大な任務がつとまるのかということが心配されるから。

問五　傍線部③『父さん、相談があるんだけど』とあるが、このときの息吹の心情を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　父が転職し、家庭の経済が苦しくなることを見越して、少しでも学費が下がる公立高校に転学して父を助けてあげたいという思い。

イ　父が転職し、やりたいことをやり始めたのを見て、自分がしっかりと経済的に家庭を支えなければならないという使命感を抱く思い。

ウ　父の転職という大きな変化があったにも関わらず、自分の進路については何もアドバイスをされていないので、仕方なくこちらから切り出す思い。

エ　以前から農業高校に転学したく、父にも意見を求めていたにも関わらず、父がいまだに返事をくれないのでしびれをきらした思い。

オ　農業高校への転校が簡単には容認されないと自覚しているが、自分が真剣に考えていることを少しでも父に伝えたくて、決心して切り出そうとする思い。

問六　傍線部④「その言葉をぐっと飲みこんだ」とあるが、このときの「自分」の心情を説明したものとして最も適当なものを、次のア～オの中から選び、記号で答えよ。

ア　歩美が転校に反対するのは目に見えているので、それを利用して息吹を説得しようと思ったが、息吹が落ち込むのは明らかなので自分の口から言おうと思っている。

イ　歩美は転校に反対するかもしれないと思いついたが、本当に反対するのかどうかの確信がもてず、それならば自分の考えを述べた方が良いと考え直している。

ウ　自分の口から息吹に対して意見を言わないといけないと思っている一方で、息吹の今後について責任を持ちたくなく、葛藤している。

エ　息吹が初めて自身の進路に言及してくれたので嬉しく思い、歩美の意見ではなく自分の意見を述べることで、父親としての関わりを保とうと思っている。

オ　息吹の転校に反対するに違いない歩美を口実に、息吹を説き伏せようと思ったが、今は父として自身の意見を言わなければならないと思いなおしている。

問七　本文中の［　i　］～［　iv　］には、次のい～にの息吹の言葉が入る。その順番を示したものとして最も適当なものを、次のア～エの中から選び、記号で答えよ。

い…「母さんはね、将来のことをもっと真剣に考えなさいって言うんだ。俺だって真剣に考えてんのにさ」

ろ…「大学なんて行く必要はない、人生は一度きりだから、やりたいことをやんなさいって」

は…「絶対反対、言語道断。受験勉強が嫌で逃げようとしてるだけだって」

に…「だけど、父さんだって結局は田舎に帰ってきたじゃないか。そして大卒でなくてもできる仕事をしている」

ア　i＝い　ii＝ろ　iii＝は　iv＝に　　イ　i＝ろ　ii＝は　iii＝に　iv＝い

ウ　i＝は　ii＝に　iii＝い　iv＝ろ　　エ　i＝に　ii＝い　iii＝ろ　iv＝は

問八　本文の表現や構成を説明したものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えよ。

ア　転職して「ヒマワリ号」を始める「自分」の感情の変化を、比喩表現も多用して表現し、成功に向かう場面を印象づけている。

イ　「自分」という一人称視点で、「ヒマワリ号」での出来事や息吹の転校の意思に接した際の心情を丁寧に描いている。

ウ　方言も含んだ会話文を多用して登場人物の絆を描くことで、息吹が田舎への生活にあこがれていく伏線を示している。

エ　「ヒマワリ号」の様子を客観的に描写することで、移動スーパーという新たなビジネスの魅力を読者に紹介している。

オ　田舎の日常風景や都会にはない星空の描写をすることで、農業高校に転校する息吹の今後の成功を幻想的に暗示している。

問九　本文の中で登場する「ヒマワリ号」は、実際に活動している「とくし丸」という移動スーパーをモデルにしている。次の【資料】は、この「とくし丸」について紹介する文章の一部である。これを読んで、後の(1)、(2)の問いに答えよ。

【資料】

とくし丸のチラシの裏面には、「販売パートナー募集」についての説明が書かれている。表面の賑やかなデザインとは対照的に、意識しておとなしめのモノクロ仕様にしてもらった。

●　あなたも始めませんか？「ありがとう」と言われる仕事です。

なかなか良いコピーである。販売パートナーさんの仕事を象徴する表現になっている。そして、その仕事内容をこんな文章で紹介している。

（一）、移動スーパーを運転して、食料品や生活用品を販売します。
（二）、住宅地やマンションへ出向き、買い物したい人のお役に立ちます。
（三）、高齢者社会にますます必要とされる仕事です。
（四）、「無縁社会」から「絆（きずな）社会」へ。人と人をつなぎ、新しいコミュニケーションを育てます。
（五）、「あのおばあちゃん、今日は出てこんなぁ」独り暮らしの高齢者の見守りもしたいですね。
（六）、最近テレビ等で注目されていて、これからの社会にますます重要となる仕事です。

3・11以降、「絆が重要だ」「人のつながりが大切だ」と、いろんな人たちが簡単に口にするが、では「絆」とか「つながり」とは何なのか？と、ずっと考えていた。そのひとつの答えがとくし丸なのであった。結局、人と人が顔を合わせ、会話をし、人的ネットワークが作られることが最も大切なのだ。それはグローバルでもデジタルでもなく、超［X］で、超［Y］な現実なのだ。その仕組みの構築に、とくし丸が挑戦するのである。

【　住友達也『ザッソー・ベンチャー　移動スーパーとくし丸のキセキ』（株式会社西日本出版社）より一部抜粋

※問題作成の都合上、一部改変　】

（1）【資料】中の空欄［X］・［Y］にあてはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア　X＝プライベート　Y＝ビジネス　　イ　X＝コミュニティ　Y＝イノベーション
ウ　X＝ローカル　Y＝アナログ　　エ　X＝ナショナル　Y＝フィジカル

(2)資料を読んで先生と五人の生徒ア～オが話し合った。このア～オの発言のうち、本文と資料の内容に照らして、明らかに**誤った発言をしているもの**を**二つ**選び、ア～オの記号で答えよ。解答の順序は問わない。

先生…資料の中で、「とくし丸」の仕事内容を(一)～(六)で紹介しているね。こうした仕事内容は、本文の中でも「自分」の体験として描かれていたよ。この共通点について話し合ってみよう。

ア …私は、(一)に興味を持ったよ。本文でも、フライビーンズを販売していることが紹介されていたね。自分がほしいものが売っているなら、とても便利だと思ったよ。

イ …私は、(二)に注目したよ。本文ではヒマワリ号の停車場所を、その時たまたま人が集まっているところにしている様子が描かれていたけれど、今後はマンションなどにも行くかもしれないね。

ウ …私は、(三)に注目したよ。本文の中でも、「自分」が「ヒマワリ号」で移動しているときに対向車の運転手が高齢者ばかりであることに気づく場面があるね。

エ …私は、(四)に関連して、本文で押し花教室に通う約束をする方たちの台詞が印象深かったな。こうした新たなつながりをもたらすものとして、ヒマワリ号が描かれているね。

オ …私は、(五)に注目したよ。ヒマワリ号に皆が集まってくることで、高齢者の生存確認にもなるね。本文でも、そうした見守り活動に対する「自分」の意気込みが描かれているよ。

【　三　】次の文章は、『御伽草子』に収められている「さいき」という説話の冒頭部である。本文を読み、後の問いに答えよ。本文（原文）の左に示してあるものは対応する現代語訳である。答えは解答用紙に楷書で丁寧に記入せよ。なお、指示された表記方法以外で解答した場合採点されないため注意せよ。

豊前国[*1]、うだの佐伯[*2]と申す人、一族に所領をとられ、京都へ上り沙汰[*3]すると①いへども、さらに道ゆかずして、年月を送れども

領地　訴えたのだが　いっこうにはかどらず

②かひなし。かくてはかなはじと思ひ、清水[*4]に参りて、一七日[*5]こもりて、③御夢想に任せとにもかくにもならんと思ひ立ち、たけまつ

これではどうしようもない

と④申す童を一人具して参り、祈念を深く申せども、さしたる御夢想もなかりけり。あたりをきつと見てあれば、年の程二十ばかりの女房の、みめかたち世にすぐれたるが、皆水精[*6]の数珠をつまぐり、念誦半と見えけるに、佐伯心に思ふやう、同じ人間にすむ

なかった　まわりをじっと見ていると　人の世

指先で動かし

ならば、⑤かやうの人と一夜の枕をならぶるよしもがなと、あまり⑥心のたへかねて、ことばをかけんと思ひ、立ち寄り「御こもり

できないものかと　言葉をかけよう

候か」と申せども、⑦聞かぬ顔にて候ひし程に、もし主[*7]ばしあたりに有るやらんと、⑧しづ心もなかりけり。

だろうか

【『御伽草子（下）』岩波文庫　＊問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

＊1　豊前国…現在の福岡県・大分県の一部　＊2　うだの佐伯…人名。「うだ」は地名らしいが未詳

＊3　沙汰…訴訟　＊4　清水…京都にある清水寺のこと　＊5　一七日…七日

＊6　皆水精の数珠…すべて水晶でできた数珠　＊7　ばし…強調を表す助詞

問一　傍線部①・②・⑤の語句の読みを、現代仮名遣いのひらがなで記せ。

①　いへども　②　かひなし　⑤　かやう

問二　傍線部③「御夢想に任せ、とにもかくにもならん」とあるが、次のア～エの中から現代語訳として最も適当なものを選び、記号で答えよ。

ア　仏様の夢のお告げを頂けるかはともかく、任せてみないか

イ　仏様の夢のお告げを頂き、それに任せてどのようにでもなろう

ウ　仏様の夢のお告げを頂いたので、それに任せたら落ち着くだろう

エ　仏様の夢のお告げを頂けたら、裁判は運に任せて故郷を離れよう

問三　次の文は、傍線部④「申す」について文法的に説明したものである。空欄〔　Ⅰ　〕・〔　Ⅱ　〕に入る適切な語句を、それぞれ漢字二字で答えよ。

④の「申す」は、下に「童」という〔　Ⅰ　〕、すなわち体言が続いている。よって、その活用形は〔　Ⅱ　〕形となる。

問四　傍線部⑥「心のたへかねて」の訳として最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号で答えよ。

ア　心**を**耐えられなくて　　イ　心**だけは**耐えられなくて

ウ　心**が**耐えられなくて　　エ　心**までも**耐えられなくて

問五　傍線部⑦「聞かぬ顔にて候ひし」の主語は誰か。本文中より**漢字二字**で抜き出せ。

問六　傍線部⑧「しづ心もなかりけり」の「しづ心」とは《落ち着いた心》という意味である。では、「しづ心もなかりけり」とはどのような状態を述べているのか。次のア～エの中から最も適当なものを選び、記号で答えよ。

ア　仏への祈りに高価な水晶を用いて本当に意味があるのかと、疑問に感じている女性の状態。

イ　一夜のあやまちを犯したことをどのように償うべきか、苦悩している女性の状態。

ウ　好きになって声をかけた女性の近くに夫がいるかもしれないと、動揺している佐伯の状態。

エ　美しい女性に声を掛けられたらどのように返事をしようかと、淡い期待を抱いている佐伯の状態。